

(1)ピクチャーモードに合わせます

Z-20カメラには、高度な自動露出機能が付いていますが、ここでは、最も簡単に使えるグリーンモードを使用します。他の露出モードについては35ページをご覧ください。

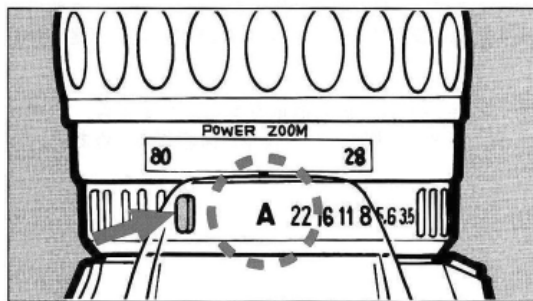
* このモードは、最も簡単なモードですから、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

I 基本的な使い方

[撮影]

(21)

1

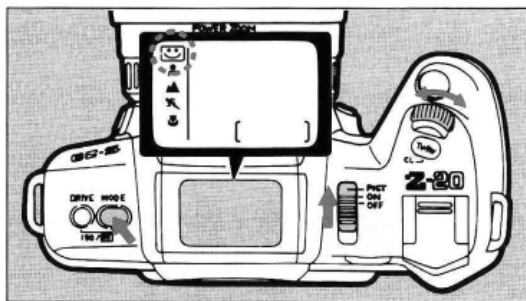


グリーンモードに合わせます

1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

* レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。

2



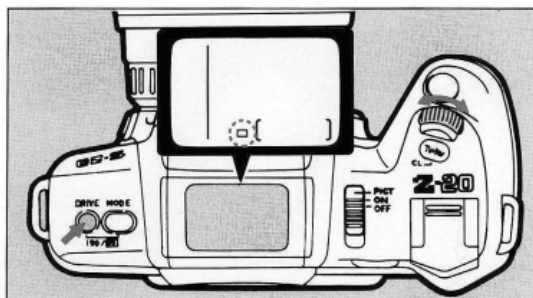
2. 電源スイッチを「PICT」に合わせ、モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルの [] に [] を合わせます。

* グリーンモードでは、ハイパープログラムシフトおよび露出補正は働きません。

(2) ドライブモードについて

ドライブモードは次の3種類を選択できます。

-  = 1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに、1コマずつ撮影されます。最も一般的なドライブモードです。
-  = 連続撮影
シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。[62ページ参照]
-  = セルフタイマー撮影
シャッターボタンを押してから、約12秒後にシャッターが切れます。
詳しくは、62ページをご覧ください。



基本的な使い方

ドライブモードの変更方法

ドライブボタンを押したまま、セレクトダイヤルを回すとドライブモードを変更できます。ここでは、一般的な1コマ撮影  に合わせておいてください。

23

(3) ズームレンズの使い方



望遠側



広角側

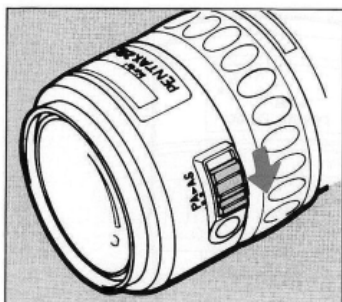
ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり[テレ]、小さくなったり[ワイド]します。好みの位置に合わせて撮影してください。

* レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角[ワイド]側、大きいときは遠いものを大きく写す望遠[テレ]側になります。

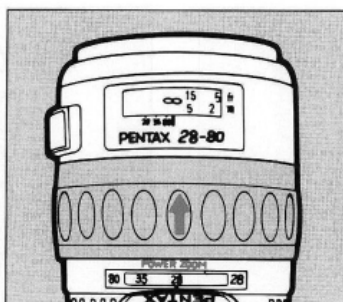
* Z-20にペンタックスFAズームレンズを組み合わせると、パワーズーム[電動ズーム]として使用できます。

* 従来のペンタックスFズームレンズなどと組み合わせる場合は、マニュアルズーム[手動ズーム]としてご使用ください。

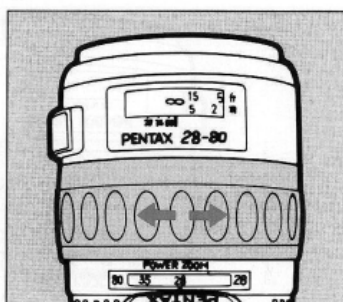
1



2



3



パワーズームで使用するには

* ペンタックス F A ズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. F A ズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを **P** に合わせます。

2. ズームリングを前側に押し出すようにして、図のように **POWER ZOOM** が見える状態にします。

* 工場出荷時は、この状態になっています。

3. ズームリングを右に回すと望遠[テレ]側へ、左に回すと広角[ワイド]側に動き、手を離すと止まります。なお、ズームリングは、回転させる角度によって、ズーム速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする[当て付ける]と高速でズームが

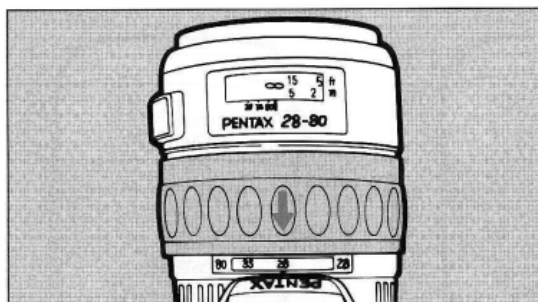
動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズームングできます。

* パワーズームでズームングをすると自動的にピント合わせが行なわれます。[ペンタックスファンクション設定で、ピント合わせをしないにすることもできます。]ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの半押しで行ってください。

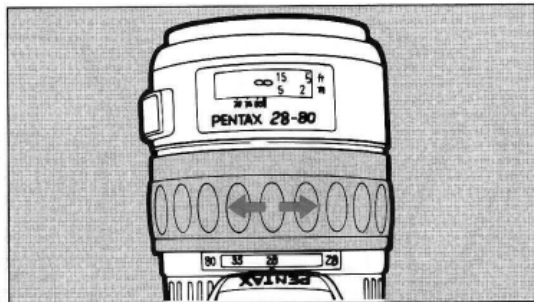
* F A ズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。この場合、距離リングの位置は ∞ に、焦点距離はレンズの長さが最短となる位置になります。[F A ズーム100~300mmや250~600mmを除く。]

(25)

1



2



マニュアルズームで使用するには

* F A ズームレンズは、ズームリングの切り替えて、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、従来の F ズームレンズと同様に使用できます。

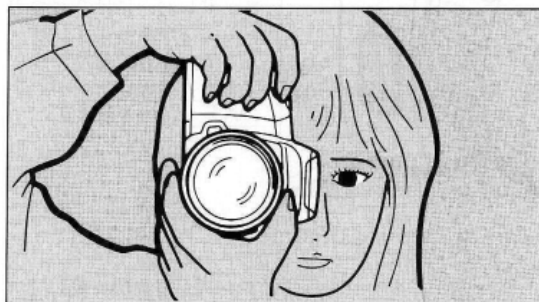
1. ズームリングを手前に引いて、**POWER ZOOM** が隠れるようにします。
2. ズームリングを右に回すと望遠[テレ]側へ、左に回すと広角[ワイド]側に焦点距離が変化しますので、好みの焦点距離に合わせてください。

(4) カメラの構え方

横位置



縦位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは指の腹で静かに押します。[強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。]
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチF」の利用をお勧めします。

- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(27)

(5) オートフォーカスで使います

(6) オートフォーカスでピントを合わせます



図のように、フォーカスモードレバーには2つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを **AF** に合わせます。

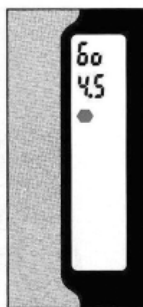
フォーカスモードレバーについて

- **AF** = オートフォーカス
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。
- **MF** = マニュアルフォーカス
手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに合わせます。
[45ページ参照]

1



2



1. 写真のように、AFフレーム **[C]** を写したいものに合わせシャッターボタンを半押しします。
 2. ピントが合うと、図のようにファインダー内の **[C]** が光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- * ペンタックスファンクション設定で、電子音を消すことができます。[80ページ参照]
 - * オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。
 - * **[C]** が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。
 - ① 撮影距離が近すぎる
 - ② オートフォーカスの苦手な被写体の場合[45ページ参照]

(28)

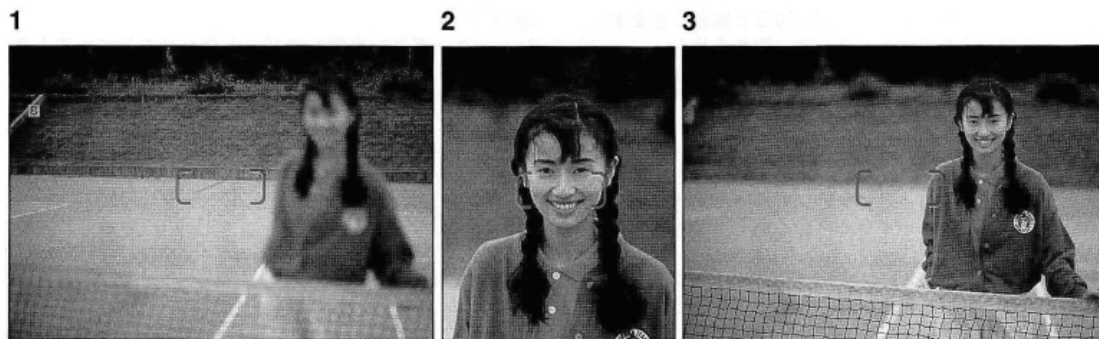
3. さらにシャッターボタンを押し切ると撮影できます。
- * ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- * シャッターボタンを半押しして、が光っている間は、ピントが固定[フォーカスロック]されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。[30ページ参照]
- * 一度ファインダー内のが点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。
- * SMCペンタックスFソフト85mm F2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。[45ページもご覧ください]
- * 構図上、AFフレームがピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影[30ページ参照]」をしてください。

動体予測

シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。

- * 被写体が速すぎるときには、シャッターが切れないことがあります。

29



フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のAFフレームで行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック[ピント一時固定]撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

1. AFフレームが外れたままで撮影すると、写真のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレームを合わせて、シャッターボタンを半押し状態にしてを点灯させたままにしておきます。[ピントを記憶させる操作です。]

3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

* シャッターボタンから指を離して、ファインダー内のが消えると、フォーカスロックは解除されます。

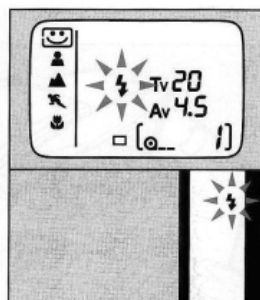
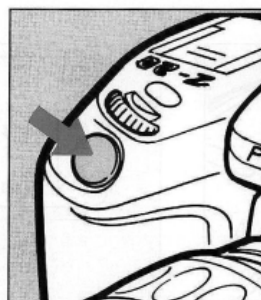
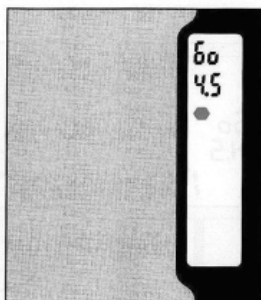
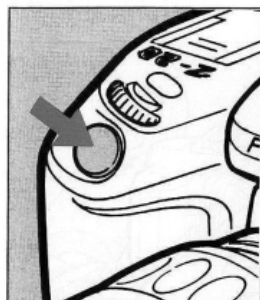
* 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。

* フォーカスロックは1コマ撮影をすると解除されます。

30

(7) 撮影します

(8) 内蔵ストロボの基本的な使い方



基本的な使い方

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。シャッターを切ると、自動的にフィルムが巻き上げられ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

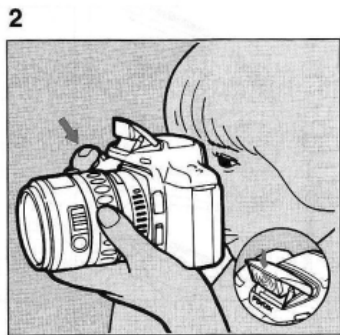
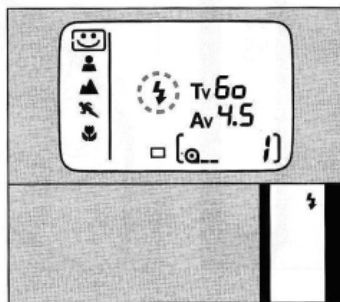
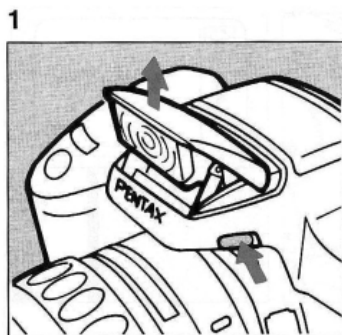
* 被写体が暗い場合や逆光の場合には、ファインダー内に「」のストロボお勧めマークが点滅し、カメラがストロボの使用をお勧めします。[表示パネルにも「」が点滅表示します。]

* ストロボお勧めマークが出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。[32ページをご覧ください。]

ストロボお勧めマークについて

カメラの露出モードをプログラム[ピクチャーモードを含む]・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内と表示パネルに「」の点滅[ストロボお勧めマーク]が出て、ストロボの使用を勧めます。なお、シャッター優先自動露出では、逆光時のみストロボお勧めマークが出ます。

③1



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルに「」が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも「」が点灯表示されます。

* ピクチャーモードで内蔵ストロボを使用した場合、表示パネルとファインダー内のバーグラフは表示されません。

* シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内にストロボ同調速度と絞りが表示されます。

2. さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押しして収納してください。

③2

基本的な使い方

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4	0.9~4.6m
F2	0.8~3.9m
F2.8	0.7~3.3m
F3.5, F4.7	0.7~2.7m
F5.6	0.7~2.3m

プログラムTTLオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。[F1.4の場合]

* 露出モードがピクチャーモードおよびプログラム自動露出の場合、内蔵ストロボはプログラムTTLオートストロボとして働きます。

* プログラムTTLオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。

* 0.7mより近距離で撮影すると露出が正しく制御されません。また、ケラレが出たりしますのでご注意ください。

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のFおよびFAレンズを使用すると、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの [f] やファインダー内の [f] が点滅して警告します。

- レンズの焦点距離が28mm未満の場合
- レンズの焦点距離が300mm以上の場合
[FAズーム100~300mmの300mmを除く]

上記の範囲内でも一部F・FAズームレンズの焦点距離では警告が出ることがあります。

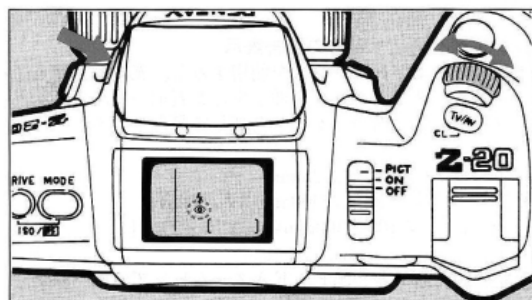
警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。FA・Fレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから、特にご注意ください。

* レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。

* Fズーム24~50mmレンズの場合、焦点距離が28~35mmでは警告が出ますが、ご使用いただけます。

* FAズーム28~105mmレンズの場合、焦点距離が約35~40mmでは警告は出ませんが、ケラレが発生することがありますので1m以上の距離で撮影してください。

33



赤目軽減機能について

Z-20には、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。

シャッターが切れる直前にストロボ発光[小光量]が行なわれ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤くなるのを目立たなくすることができます。

セット方法

ストロボスイッチを押したまま表示パネルの [f] 以外の表示が消えたらセレクトダイヤルを回して表示パネルに [●] を表示させます。

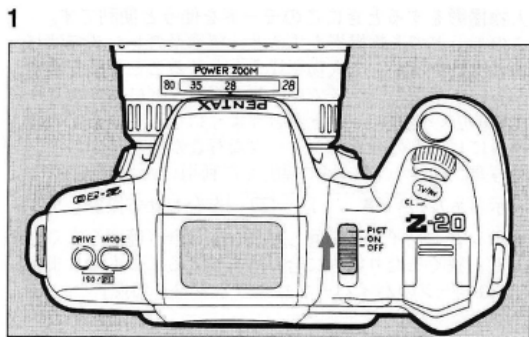
* 赤目軽減機能とAF500FTZなどのストロボのスレーブ機能を組み合わせて撮影をすると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。

* 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに [●] が表示されていてもストロボ2度発光による赤目軽減機能は働きません。

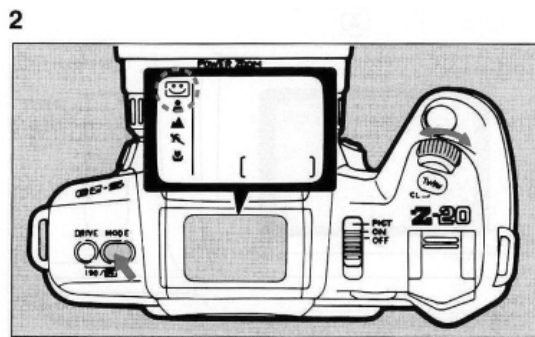
赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影する方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

(9) ピクチャーモードを使いましょう



Z-20では、5種類の撮影場面を表示パネルで選ぶだけで、簡単に高度な撮影を楽しんでいただけます。ピクチャーモードには、下記のように5つのモードがあります。[グリーンモードは22ページ参照]

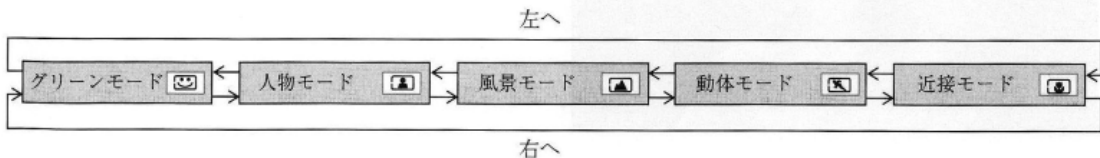


基本的な使い方

設定方法

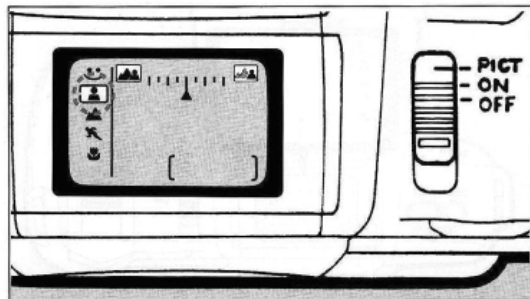
レンズの絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **PICT** にします。
2. モードボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して表示パネルの希望のモードに ☐ を合わせます。



35

人物モード ☐



人物撮影をするときにこのモードを使うと便利です。このモードで人物撮影をすると、望遠系のレンズではバックの風景をぼかして人物を浮きたたせることができます。一方、広角系のレンズでは、集合写真などに便利のように比較的広い範囲にピントが合うようになっていますので、全員にピントの合ったシャープな写真が撮れますので、記念写真、スナップなどに幅広くご利用いただけます。

表示パネルの ☐ に ☐ を合わせて撮影します。

*セレクトダイヤルを回してピントの合う範囲を広くしたり、狭くしたり好みに合わせて変えることもできます。

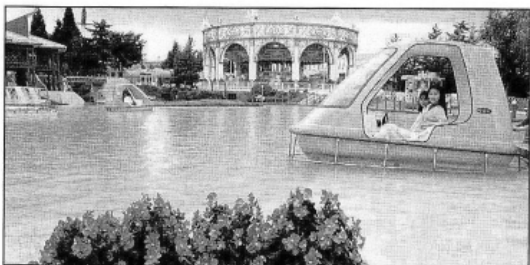
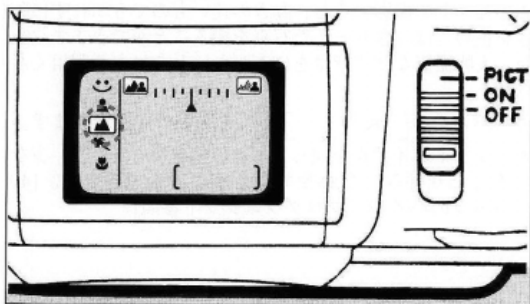
[40ページのハイパープログラムシフト参照]



36

基本的な使い方

風景モード



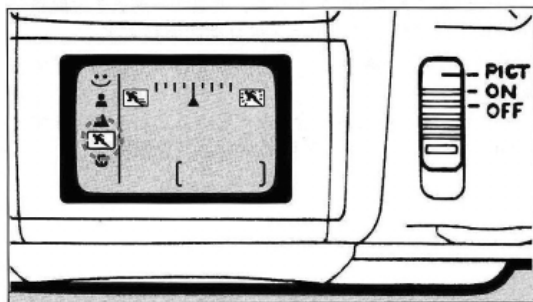
風景撮影をするときにこのモードを使うと便利です。
このモードで風景撮影をすると、近景から遠景まで風景全体にピントの合ったシャープな写真が撮れます。

表示パネルの  に  を合わせて撮影します。

*セレクトダイヤルを回してピントの合う範囲を広くしたり、狭くしたり好みに合わせて変えることもできます。

[40ページのハイパープログラムシフト参照]

動体モード



動きの速い物を写すときに使うと便利です。

このモードで撮影すると、動きの速いものでもぶれずに動きを止めてはっきりとした写真を撮ることができます。また、人物撮影などで背景をはかしたいときにもご利用ください。

表示パネルの  に  を合わせて撮影します。

*セレクトダイヤルを回してぶれの量を多くしたり、少なくしたり好みに合わせて変えることもできます。[40ページのハイパープログラムシフト参照]

